

笠岡湾干拓に関する地誌学的考察

坂本勝志

キーワード：干拓地 多目的利用 岡山県笠岡市 農業 土地利用 笠岡湾干拓

1. はじめに

本研究は、研究対象として岡山県笠岡市にある笠岡湾干拓を取り上げ、笠岡市との関係を示すために、農林水産省および中四国農政局、岡山県、笠岡市の資料及び統計を用いて、国営笠岡湾干拓における農業の土地利用及び干拓地の多目的利用という観点から、笠岡市における笠岡湾干拓の役割を明らかにすることを目的としている。

笠岡湾干拓の土地利用に関しては、工業団地について、日本鋼管(株)の誘致の成功や関連コンビナートの形成により成功を収めているが、農業用地に関しては計画段階から様々な社会情勢の影響を受け利用目的が変化している。このことから本研究においては工業ではなく農業に視点を向けて考察していく。

また、干拓地の多目的利用に関しては、農業用地及び工業用地を併せ持つという単純な多目的干拓地利用ではなく、他に例を見ない公共施設を含む多目的干拓として展開している。干拓地の環境が変化することにより、笠岡市がどのような影響を受けるのかを考察していく。

研究方法としてはまず笠岡市及び笠岡湾干拓に関する資料を、市役所に問い合わせ、現地を視察し集めた。次に、農地利用を考察するために農業に関するデータを収集し、干拓の農業経営の実態をまとめる。また、干拓地の土地利用についての資料を収集し、国営笠岡湾干拓事業の計画の変遷と関連させることにより、土地利用の多目的化に関するデータをまとめる。収集した資料をもとに分析し、その分析した結果をもとに笠岡湾干拓の笠岡市にもたらす役割を明らかにしていく。

2. 笠岡湾干拓の農業および土地利用

(1) 農業

日本は1940年代半ばから大規模干拓事業を開始している。その中で、1966年12月から着工された国営笠岡湾干拓は従来の干拓地とは違い、工業用地などを含む多目的干拓地として開発された。

完成から10年以上が経過した笠岡湾干拓の土地利用は、農業及び工業という計画の時点から、公共施設を含む他に例を見ない多目的干拓として展開している。工業用地については日本鋼管(株)福山製鉄所が760ha、国営笠岡湾干拓側が460haを造成している。笠岡湾干拓は工業面では大規模工場の誘致の成功を機に、関連する工場団地が形成されたことにより成功を収めている。そこで、本研究では工業ではなく農業に着目して考察していく。笠岡湾干拓の農業用地の内訳及び事業計画時の計画面積は以下の通りである。

表1 2000年笠岡湾干拓造成用地における農業用地の内訳

土地利用	面積
入植・増反農地	486.3ha
干拓営農センター	15.8ha
飼料生産供給基地	382.0ha
農協営農センター	10.1ha
農道空港	5.1ha
公共施設	3.2ha
転用地(公園等)	41.7ha
土地改良施設	246.4ha
計	1190.6ha

出所：岡山県農林水産部耕地課資料より作成

表2 入植・増反農地における内訳

土地利用	面積
畜産	178.5ha
耕種複合	131.6ha
園芸複合	169.7ha
入植者宅地	6.5ha
計	486.3ha

出所：岡山県農林水産部耕地課資料より作成

表3 国営笠岡湾干拓計画変遷

年次	農業用地面積	工業用地面積
1959年	1,347ha	295.0ha
1963年	1,491ha	440.0ha
1965年	1,576ha	380.0ha
1967年	1,694ha	40.5ha
1971年	1,187ha	460.0ha
1982年	1,191ha	460.0ha
1987年	1,190ha	460.0ha

出所：『笠岡地方干拓史』より作成

表4 農業に関する年表

年	事項
1959年	水田中心の営農計画
1970年	開田抑止策により 水田から畑作・畜産 への転換
1971年	農業用地の面積縮小
1989年	花き栽培の導入
1990年	笠岡湾干拓入植開始

出所：『笠岡地方干拓史』および岡山県
ホームページ資料より作成

表1・表2より耕地面積のうち最も大きい面積を占めているのが畜産関係の土地利用である。この土地利用と図1から考察すると、1970年の減反政策実施後に笠岡湾干拓は、地域の飼料作物供給基地としてその役割を担ってきた事がわかる。

1967年計画段階までは笠岡湾干拓は水田経営による営農方針を採用していたが、1971年の計画段階では農業用地は急激に減少していることが表3から読み取ることができる。この原因は政府の減反政策によるもので、今後の干拓地の土地利用におおきな転機となっている。

そこで笠岡市の農作物別生産量のグラフを図1で示し、笠岡市における主要作物の農地面積の増減を明らかにする。

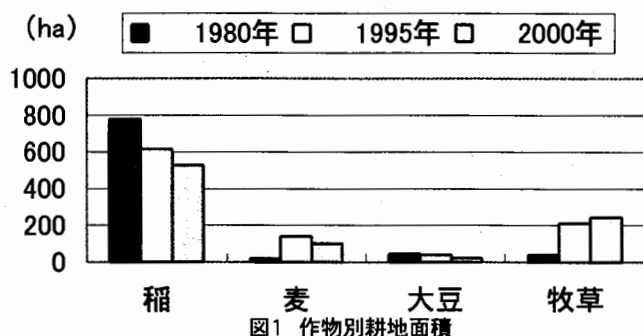


図1 作物別耕地面積

出所：『岡山農林水産統計年報』および『統計かさおか』、中四国農政局資料より作成

図1の結果から、笠岡市における牧草作付面積の増加に国営笠岡湾干拓は貢献していると言える。また、図1と表2より農業生産物耕地面積の増減が読み取れる。このことは、1970年の減反政策を機に、米から畜産・飼料作物への変換が行われ、その後1989年からはバラ等の花き栽培(1980年花き栽培面積は約27haである)が導入されている。このように、笠岡湾干拓の農業は社会情勢の変化により様々な変化を遂げている。

(2) 土地利用

国営笠岡湾干拓は農業について多目的な利用がなされているが、土地利用に関しても多目的な利用がなされている。

『笠岡地方干拓史』によれば笠岡湾干拓は、当初米作を基幹とした新たに農村を形成し、工業地帯を誘致することにより岡山県西部の地域開発の拠点とする計画となっていた。しかし、工業用地に関しては日本鋼管の誘致により計画を実現しているが、農業用地については前述のように様々な用途での利用がなされている。また農業政策の移行から、本来農地にされるべき用地を公園やスポーツ施設へとその用途を変更している。表1に示されるように国営笠岡湾干拓は、農地面積の4.2%を農業以外の使用目的で利用している。

このことは、国営事業である他の干拓地が農業主体なのに対して、国営笠岡湾干拓事業が当初の農業用地と工業用地という単純な多目的利用の干拓地でなく、農業及び工業には関係ない公共施設を含む多目的干拓地として笠岡市に多様な形での役割を果たしていることがわかる。

特に農道空港においては、2001年度利用状況においては農業関連での利用は12%しかなく、残りの88%はイベントなどの多目的な利用がなされている。その内訳も遊覧飛行からモータースポーツ、ラジコン競技会場など多岐にわたっており、笠岡湾干拓への人の流れを構築するのに十分な内容となっている。

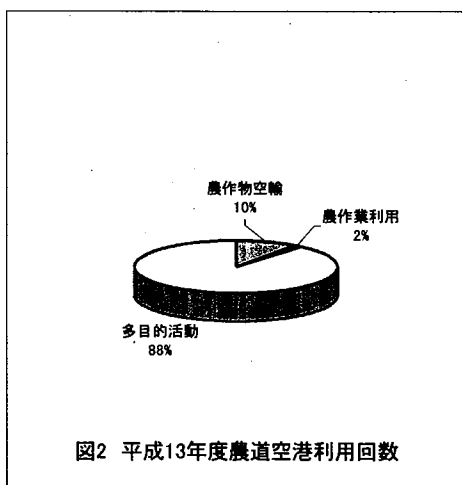


図2 平成13年度農道空港利用回数

出所：笠岡市資料より作成

表5 平成13年度多目的活用の内容

〈空港業務〉	回数
防災	130
遊覧飛行	99
救急医療基地	2
その他	197
小計	428
〈イベント利用〉	
航空ショー	1
イベント会場	1
ラジコン会場	134
スカイスポーツ会場	13
モータースポーツ	2
人力飛行機	3
燃費競技用車両	2
ウォークラリー会場	2
小計	158
計	586

出所：笠岡市役所資料により作成

3. 終わりに

本研究では、農業及び土地利用について国営笠岡湾干拓を取り上げ、笠岡市における笠岡湾干拓の役割を考察した。

笠岡湾干拓は、農業及び土地利用に関して多様な利用形態をとる多目的干拓地として、笠岡市に対して農業・工業面での発達だけでなく、公共施設及びレクリエーション施設建設のための土地を提供し、地域開発における産業だけでなく、文化的な開発に貢献している。

このように、今後も笠岡市及び岡山県は、笠岡湾干拓の多目的利用を今以上に推進し、干拓関係者以外の地域住民が集い、憩える場所へと発達させ、笠岡市だけでなく岡山県への人の流れを構築していくことが望まれる。

参考文献

- 笠岡市企画部(1992):『定本 笠岡地方干拓史』, 141p.
 笠岡市企画財政部企画財政課(1998):『統計かさおか』, 123p.
 中四国農政局統計情報部(1980):『岡山農林水産統計年報』, 275p.
 平星耕三(1990):笠岡湾干拓の課題と展望 岡山大学編 『地域と生活』, pp. 133-144.

ホームページ

- 岡山県 <http://www.pref.okayama.jp/>
 笠岡市 <http://www.city.kasaoka.okayama.jp/>
 中四国農政局 <http://www.chushi.maff.go.jp/>